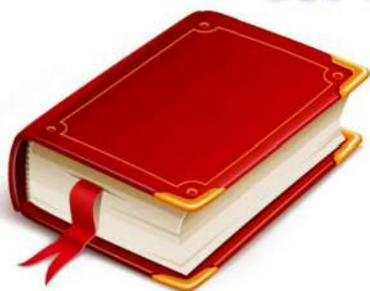


現代女性とキャリア連携専攻委員会

2015年度 推薦図書リスト



①書名：子どもはみんな問題児。

著者：中川李枝子著

発行：新潮社，2015年刊

所蔵：図書館目白 請求記号：379.9 - Nak



澤田美砂子先生（児童学科）の推薦のことば：「いやいやえん」「ぐりとぐら」の著者で有名な中川李枝子氏が、17年間の保育士経験を通して得た子どもを見る視点が、端的にわかりやすい言葉で描かれています。子育てに悩むお母さんたちに向けて書かれた著書とのことですが、子どもの本質を知りたいと思うすべての人に、一生懸命生きている子どもたちの世界がどんなものかを教えてくれます。挿絵も、中川氏の著書ではお馴染みの山脇百合子氏。どの時代の読者にも受け入れられる温かい世界観が、この著書に広がっています。



②書名：戦下のレシピー太平洋戦争下の食を知るー(岩波アクティブ新書；37)

著者：斎藤美奈子著

発行：岩波書店，2002年刊

所蔵：図書館目白，図書館西生田 請求記号：383.8 - Sai

本間健先生（食物学科）の推薦のことば：文芸評論家の斎藤美奈子氏が第二次大戦中の銃後の庶民の生活を食生活中心にまとめた本で、資料としても価値が高い。敗戦の年まで発行された婦人雑誌の記事を原文にほぼ忠実に紹介し、当時の生活を記録。なぜ最後には雑草まで食べなければ生きていけなかったのか。この本は、当時の暮らしから、耐えること、我慢することの尊さを学ぶというだけでなく、「こんな生活が来る日も来る日も来る日も来る日も続くのは絶対に嫌だ！そうならないために政治や国家とどう向き合うかを、私たちは考えるべき」というメッセージなのです。

③書名：まち建築ーまちを生かす36のモノづくりコトづくりー

著者：日本建築学会編

発行：彰国社，2014年刊

所蔵：図書館目白，住居 請求記号：520.4 - Mac

石川孝重先生（住居学科）の推薦のことば：本書は、専門家の職能を広げ、新しいプロジェクトを推進するためのアイデアとその実現プロセスを集めた、「まち」と「建築」の仕事を生み出すための図書。本書の帯にある、「建てない時代、待っていても仕事は来ない。プロジェクトの種は、まちの中にある。」の「建てない時代」とは、小生が振った言の葉でもあるが、建築の新しい時代を意味する。新しい時代を切り開き、社会で新しい種を育てる、そんな冒険に飛び込む若者にこそ読んでほしい。



④書名：獅子座の女シャネル

著者：ポール・モラン著；秦早穂子訳

発行：文化出版局，1977年刊

所蔵：図書館目白 請求記号：589.2 - Cha

内村理奈先生（被服学科）の推薦のことば：20世紀を代表する女性、しかも時代を変えた女性といったら、誰を思い浮かべるだろう。私は迷わず、ガブリエル・シャネル、通称ココ・シャネルを挙げる。シャネルを描いた伝記や評伝は数あるけれど、モランのこの作品は、本人へのインタビューに基づいて、シャネルの生の声を聴けるかのような作品だ。現代を生きる私たちは、知らぬ間にシャネルの影響を受けている。黒やベージュがシックであることも、シャネル・スーツも、香水も。キャリアウーマンの原型を創り出した彼女がどんな女性であったか、社会に巣立つ前に知っておいてもよいだろう。

⑤書名：企業力を高めるー女性の活躍推進と働き方改革ー

著者：経団連出版編

発行：経団連出版，2014年刊

所蔵：図書館目白 請求記号：336.4 - Kig

額田春華先生（家政経済学科）の推薦のことば：女性人材の活用に関する研究者やコンサルタントによる論考を（I）女性活躍推進の意義と効果をどうとらえるべきか、（II）ダイバシティマネジメントを推進し、私たちの働き方をどう改革していけばよいのかという2本の柱を持って編集しなおし出版された本である。経済学の知識がなくても、じっくり読めば新鮮な発見のある良書である。文学部や理学部等の、ふだん経済学と関わりの少ない学生のみならず、ぜひ、ご一読あれ！



⑥書 名：東方綺譚

著 者：ユルスナール〔著〕；多田智満子訳

発 行：白水社，1980年刊

白水社，1984年刊（白水Uブックス，69）

所 蔵：図書館目白（1984年刊），図書館西生田（1980年刊） 請求記号：953 - You

平館英子先生（日本文学科）の推薦のことば：著者は1903年生まれ。ベルギー、ブリュッセルの名家出身の作家で、父や家庭教師から高度の古典学的教養を授けられ、20代からギリシアをはじめヨーロッパ各地を遊学した。フランス翰林院の、史上初の女性会員。その遊学で得た見聞を素材として活用し、確かな古典の学識の裏付けを持つことで、奥行き深い作品となっている。なかでも『源氏物語』中の空白の帖「雲隠」を語る「源氏の君の最後の恋」に見通される人生の皮肉は興味深い。



⑦書 名：歌集小さな抵抗 一殺戮を拒んだ日本兵一（岩波現代文庫，社会；234）

著 者：渡部良三著

発 行：岩波書店，2011年刊

所 蔵：図書館目白 請求記号：911.168 - Wat

白井洋子先生（英文学科）の推薦のことば：戦争はいかに人から人間性を奪い取るものであるか。本書は、一兵卒の目を通して見た日中戦争の実態を、短歌で告発する。1943年10月、大学3年の時に明治神宮外苑競技場での学徒出陣壮行会

を経て、翌春、中国大陸に送られた著者は、最初から確固とした反戦思想を抱いていた訳ではなかった。しかしキリスト者として中国人捕虜刺突を拒否したことで、軍隊内での凄惨なリンチに見舞われる。自らが戦争の被害者ではあるが、それ以上に、中国の民衆にとっては加害者であるとの痛切な自覚が、本書の芯となっている。

⑧書 名：シャルリ・エブド事件を考える（ふらんす特別編集）

著 者：鹿島茂，関口涼子，堀茂樹編著

発 行：白水社，2015年刊

所 蔵：図書館目白 請求記号：316.1 - Sha

高頭麻子先生（史学科）の推薦のことば：これは雑誌の特集号だが、雑誌『ふらんす』は今年創刊90周年を迎え、フランス文化・社会への理解の深さと知識の積み重ねには定評がある。今年の正月に世界中を震撼させたパリの風刺雑誌編集部テロ事件は、フランス人にとっても、イスラム教徒にとっても、極めて根元的な問題を突きつけるものでありながら、日本人には理解し難い点も多い。キリスト教会の権威との長年の闘いの末にフランス人が勝ち取った政治・教育の「非宗教性（ライシテ）」とは何か？「すべてを許す」という言葉の深い意味は？「表現の自由」の日仏の違いは？事件の本質、現在の状況を多面的な視点から掘り下げており、現段階で最良の解説書である。



⑨書 名：数学ガール

著 者：結城浩著

発 行：ソフトバンククリエイティブ，2007年刊

所 蔵：図書館目白，数学 請求記号：410.4 - Yuk

東海林まゆみ先生（数物科学科）の推薦のことば：数学の楽しみ方を教えてくれる良書である。理系の大学生だけではなく中学・高校生から一般の数学に興味をもつ人達まで、幅広い層がそれぞれの立場で楽しめる数学書である。著者は数学の専門家ではないが内容的には確

かなものであり、2014年には日本数学会賞出版賞が贈られている。シリーズはすでに数巻出版されており各巻で違う数学テーマを扱っているが、3人の高校生が様々な問題を解きながら数学の世界を旅する、という小説スタイルで話が展開していくので、まずシリーズ1から読み始めてほしい。



⑩書 名：ゲノムが語る生命—新しい知の創出—（集英社新書）

著 者：中村桂子著

発 行：集英社，2004年刊

所 蔵：図書館目白 請求記号：460.4 - Nak

和賀祥先生（物質生物科学科）の推薦のことば：2003年にヒトゲノム計画が完了した。それは、ヒトがもつすべての遺伝子の情報を解読したことを意味する。それ以来の遺伝子工学や生殖医療分野における急速な技術開発も合わさって、いまや遺伝子を調べることによって病気発症の予測や出生前の赤ちゃんの診断が可能になった。一方、このような診断法の開発に伴い、遺伝子の相違による差別、さらには生命の選別という新たな問題とわれわれは直面することとなる。遺伝子とは何かを理解し、この新たな問題とどう向かいあっていくかを考えていく上で、本書は必読の本である。

